

東京記者聯盟機関誌

号外

一九二七年七月

↓一九二八年三月

復刻版

B5判・A5判 / 上製 / 総八九四ページ

○揃定価 〓 本体三五、〇〇〇円十税

○解題 〓 河原 功 (成蹊高等学校教諭)

二〇〇四年十月一括刊行!

全二卷・別冊一

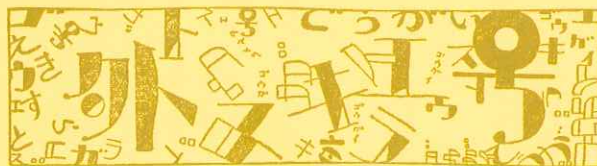
一九二八(昭和3)年二月の最初の普通選挙を控え、

「金融恐慌」に始まった

不景気・失業・金融不安の時代に、

民衆に真実を報道することを目的に刊行された

プロレタリアートの機関誌、全八号を復刻。



不二出版

一九二七年二月、プロレタリアートの団体「東京記者聯盟」が組織された。

「号外」は、その任務を「専制と暴虐の反抗者であり民衆に対する真実の報道者であり、民衆に誤らざる見解と方針を与へる所の真に民衆の意志を尊重し従つて民衆の帰趨を具體的事実によつて指示するところのものである」としている。

「号外」が発行された背景には、一九二七年三月の震災手形処理問題をめぐつて発生した「金融恐慌」に立ち向かおうとする意図も働いている。

またこの時期は、プロレタリア文学運動の隆盛期と重なつていて、本誌芸芸欄を特徴づけているのも注目されよう。

「号外」は、発行されていた期間は二年に満たないが、普選実施に絡む既成政党間の抗争、無産政党の活動ぶりを紹介し、また治安維持法に強く反対し、不当検束や検閲制度への抵抗も露にしているなど、当時の社会状況を反映している。近代政治史・メディア史研究等に貴重な資料として復刻するものである。

稀観の雑誌、「号外」の復刻を喜ぶ

堀切利高

「号外」に初めて接したのは創刊号で、堺利彦の「非戦論で萬朝報を退いた時の事」を読んで驚いた。平民社結成の契機となった退社の経緯を具体的に書いて、今まで知られていなかった事実を多く含んでいる、早速貴重な資料として紹介したが、それだけではない。蔵原惟人、田口運蔵、中西伊之助、里村欣三、山田清三郎、前田河広二郎、佐野袈裟美らがエッセイ・小論に顔を揃え、創作も岡下一郎と吉田金重。表紙も柳瀬正夢で、カットはプロ芸の美術部。社会漫画は松山文雄、下川凹天、加藤悦郎らの日本漫画家聯盟。まるで文戦派を中心とする日本プロレタリア芸術聯盟の機関誌かと思わせる構成であった。

しかし、第二号以降は二転してその面影はなくなり、芸芸関係は創作欄に絞られ、Aシンクレアの翻訳連載に加え、久板栄一郎、山田清三郎、井東憲(翻訳)、佐々木孝丸、黒島伝治らの創作が、二編載るだけになっている。思うに六月の日本プロレタリア芸術聯盟の分裂、プロ芸と労芸の激しい対立がこのような雑誌にも影響したのであろう。ただこの中の黒島伝治の小説「帯皮」は、最近出た五巻本全集(勉誠出版)にも未収の作品で、昨年須田久美氏の紹介でようやく陽の目を見たのである。

さすが東京記者聯盟の機関誌だけあって、最初の普選(そして三五)前の昂揚した情勢をヴィヴィッドに伝えて興味深い「号外」であるが、また堺、黒島の例のように意外な発見がある稀観の雑誌でもある。文献屋の私はそこに惹かれる。

不二出版

聯盟新聞

何が故に記者聯盟は生れたか

記者であるなら誰でも這入れる様な、最もデモクラチックで、然し固執強い記者聯盟。もう疾の昔にある筈であつて、實際にはさう云ふ普通の新聞のないのが東京の現状であつた。尤も日本何々国際新聞協会、日本新聞協会、其他春秋など、云つた様な組織は前から存在したが、此等は皆一部の要求を充つしに過ぎず又一部のグループの獨占的、或は社交的團體に過ぎず、近時澎湃として漲る社會的階級運動の精神から出て来たのは一つも見當らなかつたのである。是は單に東京に於てのみならず多少の相違はあつても全國に於ける言論階級運動の現状である。故に於て我等同志は起つて此要求に應ずべき第一歩として東京記者聯盟を組織し全國的運動の序曲を奏せんとするものである。最早や我等は個人的榮華競争や一騎打の功名争ひに満足して居る時でない。時代を解せざる資本家が社會の公器たる言論機關を私して、記者は「トロロチン」と同じく「後から」押せば出て来る」と、封建時代の暴君も敢てせざる暴言を甘受す可き時ではない。我等

夜を日につく發起人會の活動

以上如き愚意の下に昨年十一月發起人會名により、一般新聞雜誌通信關係の各社へ懇請状が發せられた。これは如何に當時、我々の計畫が一般記者の輿論を如何に記者の地位を擁護すべき組織が心強く宿望されてゐたものであるかを裏書きする好例の資料であつた。これに勢ひを得て、申込者の激増と種々な事務の繁忙を處理するため、書記長に木下市吾を、速水盛信君を書記に任命し、第一發起人(加藤武雄、永代輝雄、小

野賢一郎、山根眞治郎、木村毅、御手洗長雄、下田將英、難波英夫)を幹事とし、新なる申込者百有餘人を第二發起人として趣意書、東京の凡ゆる新聞通信雜誌關係の社に約三千の楳文の配布により、この再度の楳文の配布により、加盟申込者は倍加し、幹事會及發起人會に於ても、發會式の準備萬端の用意は滞りなく完成し、本年二月二十七日、歴史的社會的に極めて重要なエポックを劃し而して名實共に備はつた所我々が「號外」の記者聯盟の發會式の幕は切つて落されたのである。

盛大なる發會式舉行

この日定刻を過ぎる午前十一時十分、全國の記者諸君の注視と希望の焦點の中に我々、東京記者聯盟の創立總會は發會式に於て開かれ、さしほに廣き堂も加盟員を以て埋められた。先づ幹事會を代表して難波英夫氏の司會の辭ありついで同氏の記者聯盟計畫より總會に至るまでの經過報告あり、議長選舉並に書記任命あり、大山寛成氏巨額を壇上に運び、この盛大なる創立總會に於て不肖が議長とつて、身にあまる光榮であつた。

堂々たる記念清吏會開かる

(46)

南宋書院の八時間勤務制實施

組合の力に依つて獲得したこの要求をみよ!

全書店員に警鐘を打つ。さきに「無産者自由大學」を出版したり社會主義關係の書籍を出版してゐる牛込神樂坂にある南宋書院は昨年十一月三十日突然二名の女事務員(校正部一名、小賣部一名)に解雇の申渡しをした。その理由は經營困難であること、小賣部の女店員は氣質が氣に喰はないと云ふ二つの點であつた。この女店員に對して特にあげられた氣質が氣に喰はないと云ふ裏面には同君が同店の勤務時間が長すぎる事とこの寒空にイスも與へられず、きの上に女がながく立つてゐること、は到底堪えられないから改善してくれと云ふ要求を持ちだし、他、他の店員を煽動したと云ふ點が主な理由となつてゐると云はれてゐる。

か、る不當な理由は云ふまでもなく、解雇の理由にはならぬ。なほ因業なる他書店主と違つて直に八時間勤務制をとつた南宋書院は二部交替によつて實施すると云ふ。

書店員の勤務時間が永いこと、その他は、何れも現在全國の書店従業員の不平等の中心であり書店主に對して是非獲得しなればならない問題である。

關東出版俸給者組合、及び出版労働組合は茲に於てこの問題を直にとりあげ、青年同盟、婦人同盟の應援の下に南宋書院に對して兩名の復職を要求し嚴重交渉を開始した。幸に南宋書院は、この理由の下に解雇しかつた女性を飢餓の巷につき落とすことの非を悟り反省し、交渉僅か二回にして復職の要求を入れた。

全書店従業員が是非獲得すべき問題であつて、かゝる重要な意義ある八時間勤務制を他書店にソツ先してみよとめた。南宋書院の反省自覺にわれわれは敬意を表すると共に南宋書院にめぐんだよき萌芽をますます大とするやうにさらにさらに特記すべきことは、南宋書院が、われらが復職要求と同時に提出した八時間勤務制の要求を入れ、南宋書院従業員間の勤務時間は八時間勤務とするの旨を、解決證書に記入したことである。前述したる如く書店に於ける八時間勤務制は勤務時間間の短縮要求を團結の威力に依つて全書店員が獲得されんことを切望する。

なほ因業なる他書店主と違つて直に八時間勤務制をとつた南宋書院は二部交替によつて實施すると云ふ。

号外

号外七月號目次

第一卷第一號

柳瀬正夢

表紙.....1

五大政黨展覧會.....2

我等の提出した三十五の質問に對し五大政黨は如何に答へたか

◇英露國交斷絶と支那問題◇臺灣朝鮮兩議會を認むるか◇失業問題の對策◇人口食糧問題とパースコントロール◇婦人參政權問題◇夫の姦通と廢娼問題◇モダンガール出現の社會的根據◇樞密院と貴族院をどうする◇帷幄上奏問題◇武官大臣廢止問題◇今の新聞及び新聞記者をどう見る◇選挙に描かれた時の氣持◇俳優を勸進にするか◇片假名左横書問題◇農村の疲弊と青年の離村◇知事の大更迭と公選問題◇所謂鈴木・山岡・宮田とは◇選挙費の出所と財閥關係◇田中大将の機密費問題◇小川鐵相の所謂責任問題◇今秋の府縣會議員選舉對策◇制限選舉に無産政黨の立候補は如何◇既成政黨の無産政黨觀◇既成政黨の既成政黨觀◇既成政黨無産政黨提携問題◇議會解散請願運動に對する意見◇五十四議會對策◇出版物法案◇發賣禁止・上演禁止◇治案維持法は必要ありや

全國の地方新聞よ結成せよ.....記者十哲

記者の生活不安を如何に見るか.....安島譽

山梨大将臺灣總督成損ね事件の真相.....本島譽

所謂福岡水平社事件に潜む怪事實.....澁谷せせら

新八景のからくり.....尾崎眞三

没落を急ぐ我國資本主義 金融恐慌の根本的診斷.....大山村郁夫

我等は現在の政局を如何に觀るか.....田口ノブ

號外日誌.....テロノフスカヤ

生活の花.....I・W

外交列車.....中野伊之

記者出世秘傳.....里村欣之

下廻り記者の悲哀.....山田清三

傳公と新聞.....前田河廣

號外の起原.....各人各

鈴の音.....各人各

海の號外.....各人各

英露國交斷絶と時局への影響.....早坂二郎

田中内閣の對支出兵問題可否.....各人各

李大釗の印象.....各人各

漫畫

同志李大釗を悼む.....堀藤利彦

非戰論で萬朝報を退いた時の事.....日本漫畫家聯盟

モダンガール征伐.....清水部四郎

花流病網.....服部四郎

モダニスピリットダンス.....服部四郎

梅雨期の職業紹介所.....服部四郎

路上のパン.....服部四郎

うたがひ.....服部四郎

開かずの扉.....服部四郎

牛肉の蔭にかくれた欺瞞を發け.....服部四郎

漫畫戰線.....服部四郎

個人は常に弱者なり(既成記者團失敗の根據).....服部四郎

聯盟新聞.....服部四郎

圓助本議會.....荒木武

立憲民政黨の正體.....荒木武

株は必ず失敗する.....荒木武

初期の廢娼運動.....荒木武

新聞は大阪.....荒木武

映畫に扱はれた新聞記者.....荒木武

あの事件はどうなつたか.....森方雄

その後の穩田事件、怪行者を繞る五人の男.....森方雄

外人檢舉事件に對する一外人の抗議書.....森方雄

外國記者團の研究(英國の記者組合).....森方雄

血痰と辨當料(創作).....岡下査

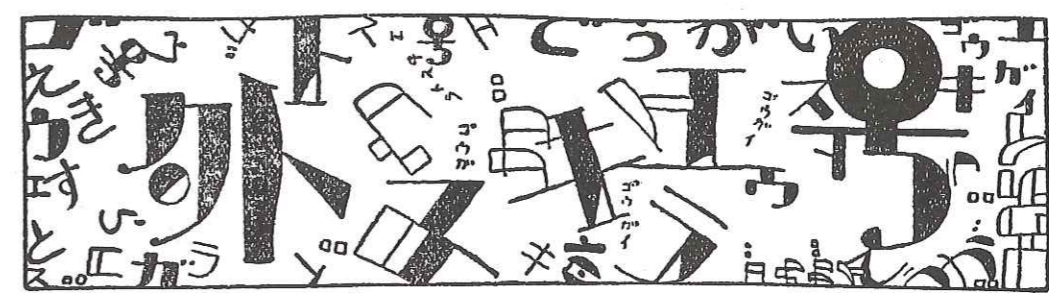
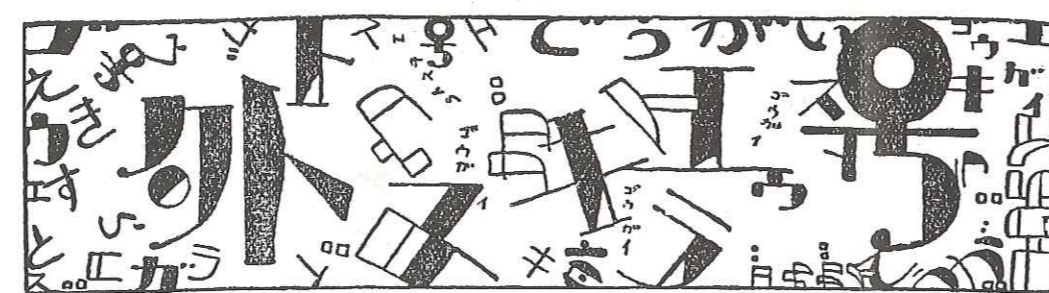
文藝感.....岡下査

七日間(創作).....吉田金重

編輯後記.....市村藝術聯盟

主要執筆者

青木駿一	秋笹正之輔	郁達夫	石川三四郎	井東憲	伊藤晴雨	大山郁夫
岡下一郎	風見章	片上伸	加藤悦郎	加藤勤十	神近市子	河合準三
川合仁	菊川忠雄	北沢新次郎	藏原惟人	黒島伝治	小堀甚二	小牧近江
小松緑	近藤榮蔵	佐伯八郎	堺利彦	佐々木孝丸	里村欣三	佐野袈裟美
佐野学	下川四天	鈴木文治	関口泰	田口運蔵	田中耕造	近松秋江
友成三郎	内藤勝美	内藤民治	中西伊之助	新渡戸稲造	野坂鉄	野田律太
野村三千雄	麿姓外骨	長谷川了	早坂二郎	樋口弘	久板榮二郎	藤森成吉
布施辰治	古屋貞雄	細迫兼光	前田河広一郎	松山文雄	皆川哲雄	美作太郎
宮田脩	三輪寿壮	三輪田元道	森禧八郎	柳瀬正夢	山川均	山崎今朝弥
山田清三郎	吉田金重	若宮卯之助				



号外

[復刻版概要]

全三巻・別冊1

体裁——B5判・A5判／上製／総八九四ページ

揃定価——本体三五、〇〇〇円＋税

ISBN4-8350-4151-8

推薦——堀切利高(平民社資料センター代表)

別冊——解題(河原 功)・総目次・索引

(別冊のみ分売可) 本体価格、〇〇〇円＋税

ISBN4-8350-4154-2

刊行——二〇〇四年十月

関連 図書

長谷川国雄 主筆 [1928年～1936年刊]

サラリーマン

全24巻・別冊1

本誌は、二〇年代末、昭和金融恐慌・不況を迎え、急速に増大したサラリーマン(俸給生活者)層にとつての受難の時代に創刊された「大衆経済雑誌」である。「新中間層」と呼ばれた彼らを「知的労働者」あるいはインテリゲンチヤとして自覚させ啓発することを意図した。財閥や企業を撃ち、国際問題を論じ、「サラリーマンは戦争に行きたくない」と非戦論を謳い、「働く者本位の社会」をめざした本誌は、経済史・思想史研究に必須の資料である。

別冊Ⅱ解説(田中秀臣)・総目次・索引

B5判・上製・総9、690頁

揃定価Ⅱ本体435、000円十税

00年11月配本完結「復刻版」

推薦Ⅱ猪瀬直樹・奥平康弘・佐高 信・杉原四郎・松浦 三

武田麟太郎 主筆 [1936年～1938年刊]

人民文庫

全26冊・別冊1

二二六事件のまさに一〇日前に創刊された本誌は、内務省の後押しで文芸統制のために結成された文芸懇話会や一部にファシヨ的傾向のある『日本浪曼派』などの文学の体制内化を厳しく糾弾し、被抑圧階級Ⅱ庶民に文学の起点を求めた。反ファシズム・人民文学志向の文学雑誌として、苦悩する若い左翼文学者たちの戦前最後の砦となつた本誌が、文学史上・近代史上に占める位置は重要である。

別冊Ⅱ解説(小田切秀雄)・総目次・索引

菊判・B6判・並製・総5、034頁

揃定価Ⅱ本体180、000円十税

96年6月刊「復刻版」

推薦Ⅱ池田浩士・小田 実・長谷川 啓・水上 勉



外

号

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替00160・294084